

第8節 特筆すべき動物

平成10年12月から平成11年11月に実施した現況調査時に生息を確認した陸生動物について、その後、特筆すべき種の選定基準が改訂されたため、再度特筆すべき動物の抽出を行った。

その結果、表8-1に示した種が対象となり、今年度より調査を実施することとした。

なお、今回の特筆すべき種選定基準の見直しにより追加となった種については、表中「調査区分」欄に「追加」と記し、継続して調査を実施している種には、「継続」と記載した。

また、昨年度まで調査を実施していました「ゲンジボタル」、「ハルゼミ」、「トゲアリ」については、今回の特筆すべき種の選定基準の改訂により、特筆すべき動物の対象から外れたため、調査対象外としたが、「ゲンジボタル」については、本事業の保全対策として本種を挙げていることから、今年度は調査の対象とした。

表8-1 見直しにより特筆すべき動物として挙げられた種

分 類	種 名	調査区分	分 類	種 名	調査区分
鳥 類	オオタカ	継続	昆虫類	ゲンジボタル	継続
	ハイタカ	継続		ムカシヤンマ	継続
	チュウサギ	継続		オオクワガタ	追加
	タゲリ	継続		ミカドガガンボ	追加
	サンショウクイ	継続		ミズアブ	追加
	サシバ	追加		オオイシアブ	追加
	コチドリ	追加		アオメアブ	追加
	アオバズク	追加	クモ類	コガネグモ	追加
	コマドリ	追加		カワベコモリグモ	追加
	キビタキ	追加		アシナガカニグモ	追加
	フクロウ	継続	陸産貝類	ヒラベッコウガイ	追加
両生類	アカハライモリ	追加		ヒメビロウドマイマイ	追加
爬虫類	ニホンイシガメ	追加			

第1項 オオタカ・ハイタカ

1-1 調査日時及び調査内容

調査は表8-2に示したとおり、平成21年4月及び平成22年1月から3月にかけて実施した。

表8-2 調査日時及び調査内容

調査回	調査日	調査時間	調査内容
第1回	平成21年4月23日	6:00～13:00	生息確認調査
第2回	平成22年1月27日	7:00～13:00	
第3回	平成22年2月17日	6:30～13:00	
第4回	平成22年3月17日	6:30～13:00	

1-2 調査地点

調査地点は図8-1に示したとおりであり、施設と最終処分場計画地を広く見渡せる2地点で実施した。

1-3 調査方法

調査は定点観察により行い、オオタカ及びハイタカの飛翔が確認された場合は行動を追跡し、把握することとした。

また、調査にあたっては、8倍程度の双眼鏡及び25～30倍程度の望遠鏡を用い、さらに、オオタカ等が確認された場合は、無線機を用いて、調査員間で連絡を取り合い、行動をより詳細に把握することとした。

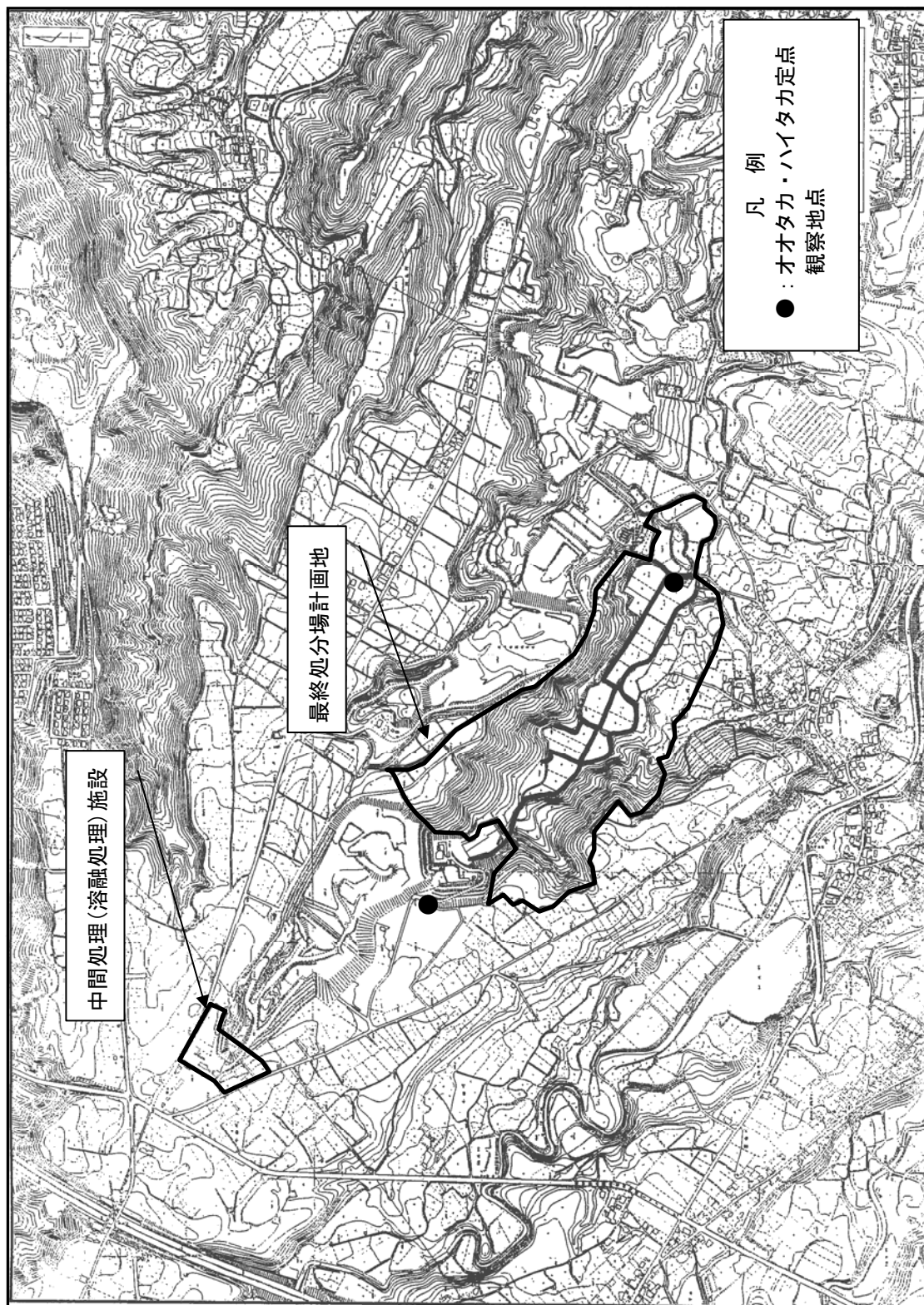


図 8-1 オオタカ・ハイトカ調査地点

1-4 調査結果

調査の結果、表8-3に示したとおり、オオタカ5例を確認した。

確認状況は、いずれも飛翔のみで、繁殖を示唆する行動（餌運び、巣材運び等）は確認できなかった。

確認位置は、図8-2に示したとおりである。

なお、ハイタカは確認できなかった。

表8-3 オオタカ確認状況

No.	確認年月日	確認時間	雌雄・齢	確認状況
1	平成22年1月27日	11:05～11:10	♂・成鳥	最終処分場計画地上空付近でカラスに追われている個体を確認。その後「2」が出現し、一緒に北東方向へ飛び去った。
2		11:07～11:10	♀・成鳥	「1」の少し後に出現。「1」と同様カラスに追われ、「1」と一緒に北東方向へ飛び去った。
3		11:55～12:15	♀・成鳥	北の方向で旋回飛翔している個体を確認。旋回しながらゆっくりと南下するが、最終処分場計画地上空付近で向きを変え、北東方向へ飛び去った。
4	平成22年2月17日	9:08～9:08	♂・成鳥	最終処分場計画地北側上空でカラスに追われている個体を確認。すぐに北方向へ飛び去った。
5		10:47～10:47	♂・成鳥	「4」と同様の場所でカラスに追われている個体を確認。カラスに追われながら西方向へ飛び去った。

注：表中のNo.は図8-2のNo.に対応する。

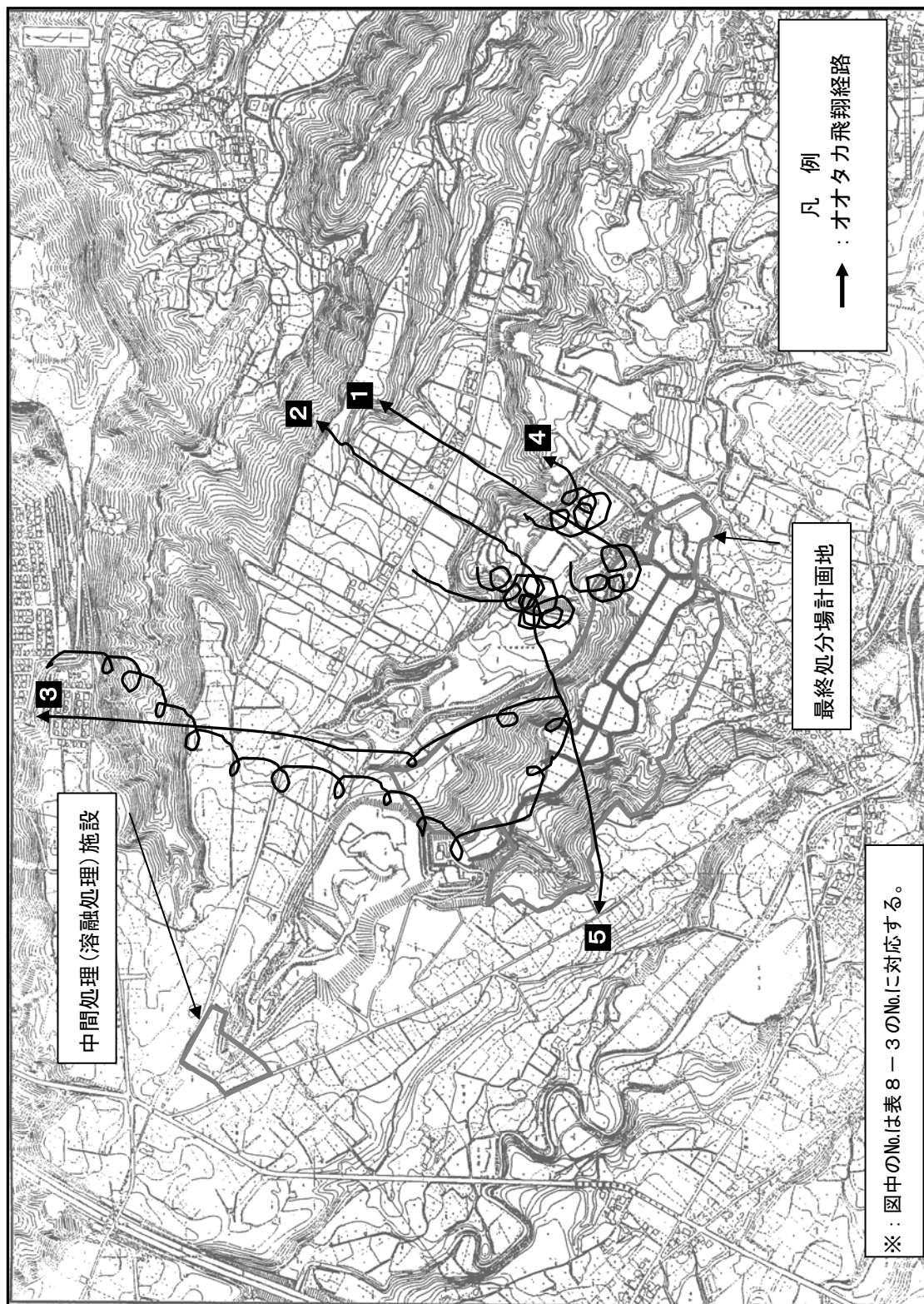


図8-2 オオタ力確認状況

1-5 まとめ

調査の結果、オオタカの生息を確認した。

確認状況は、いずれも飛翔のみであり、繁殖を示唆する行動（餌運び、巣材運び等）は確認できなかったことから、最終処分場計画地内又はその周辺での繁殖の可能性はないものと考えられる。

また、最終処分場計画地の北側には四日市市南部埋立処分場があり、ここを餌場としているハシブトガラス及びハシボソガラスが本地域周辺を生息環境（^{ねぐら} 埒）として多数利用している。

さらに、カラス同士のなわばり争いや、他の鳥類（トビ等）への攻撃なども頻繁に行われていることから、本地域はオオタカ、ハイタカ等の猛禽類の繁殖及び生息には適さない環境であると考えられる。

なお、ハイタカについては、今回生息は確認できなかったが、最終処分場計画地周辺の環境に大きな変化はないことから、今後確認される可能性はあると考えられる。

第2項 チュウサギ・サンショウクイ・タゲリ・サシバ等

2-1 調査年月日及び調査内容

調査は表8-4に示したとおり、渡り鳥として確認される可能性のあるサシバ等を5月に、夏鳥であるチュウサギ、サンショウクイを6月に、冬鳥であるタゲリを12月に、夜行性の種であるアオバズクを5月の夜間に実施した。

表8-4 調査年月日及び調査内容

調査対象種	調査年月日	調査内容
チュウサギ サンショウクイ	平成21年 6月 12日	任意観察調査
サシバ コチドリ コマドリ キビタキ	平成21年 5月 14日	
タゲリ	平成21年 12月 9日	
アオバズク	平成21年 5月 27日	

2-2 調査範囲

調査範囲は図8-3に示したとおりであり、最終処分場計画地周辺で実施した。

2-3 調査方法

調査は調査範囲内を任意に踏査する任意観察により実施した。

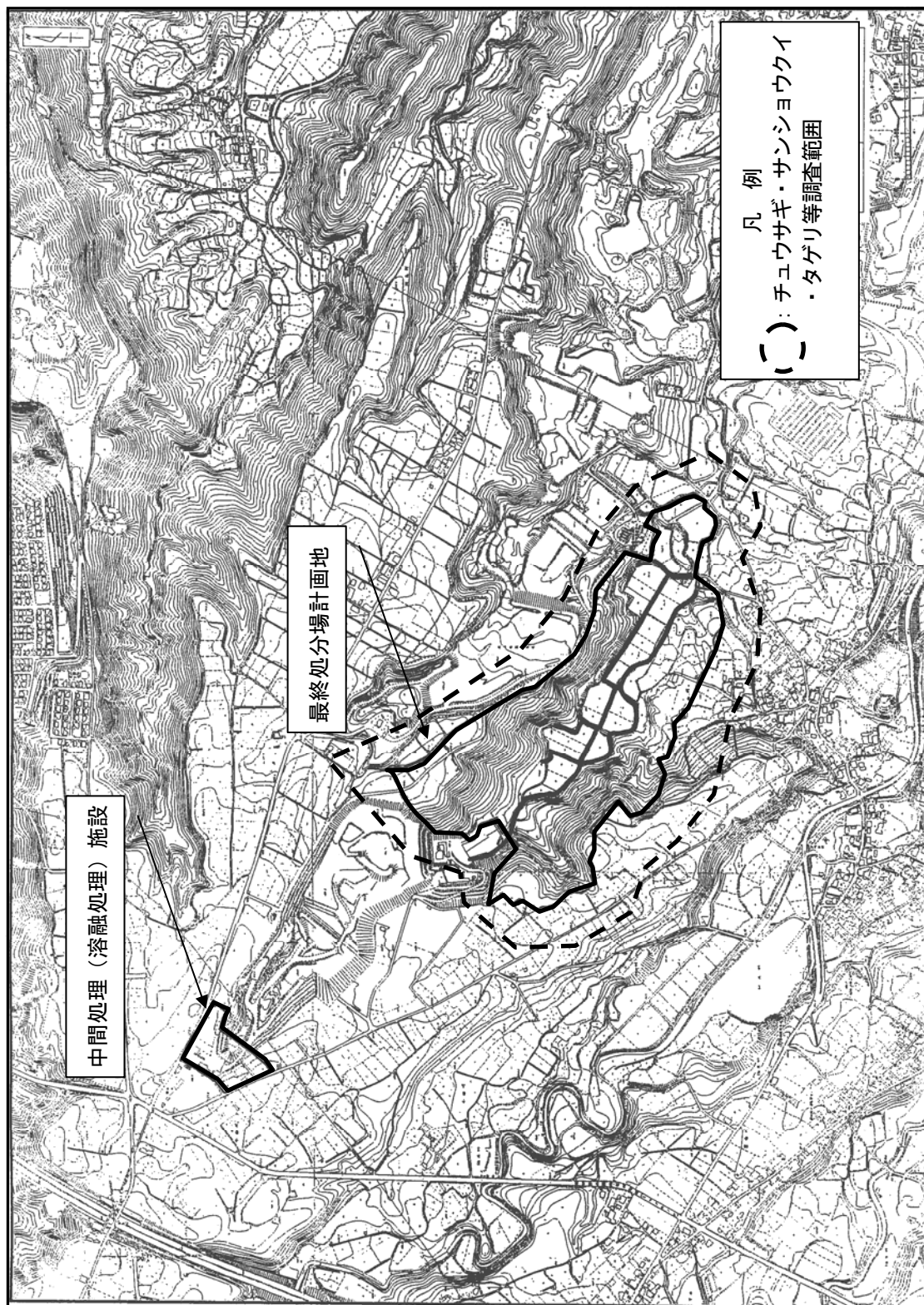


図 8-3 チュウサギ・サンシヨウクイ・タゲリ等調査範囲

2-4 調査結果

調査の結果、コチドリ、キビタキの生息を確認した。

コチドリについては、最終処分場計画地内において採餌中と思われる2個体を、キビタキについては、最終処分場計画地の北側樹林内において鳴き声（1個体）を確認した。

確認位置は図8-4に示したとおりである。

2-5 まとめ

調査の結果、対象とした8種（チュウサギ・サンショウクイ・タゲリ・サンバ・コチドリ・コマドリ・キビタキ・アオバズク）のうち、コチドリ、キビタキの生息を確認した。

なお、その他の6種について、今回、生息は確認できなかったが、これらの種を確認した現況調査当時と比べ、周辺の環境は大きく変化しておらず、餌場としての環境は維持されているものと考えられることから、今後も飛来する可能性はあると思われる。

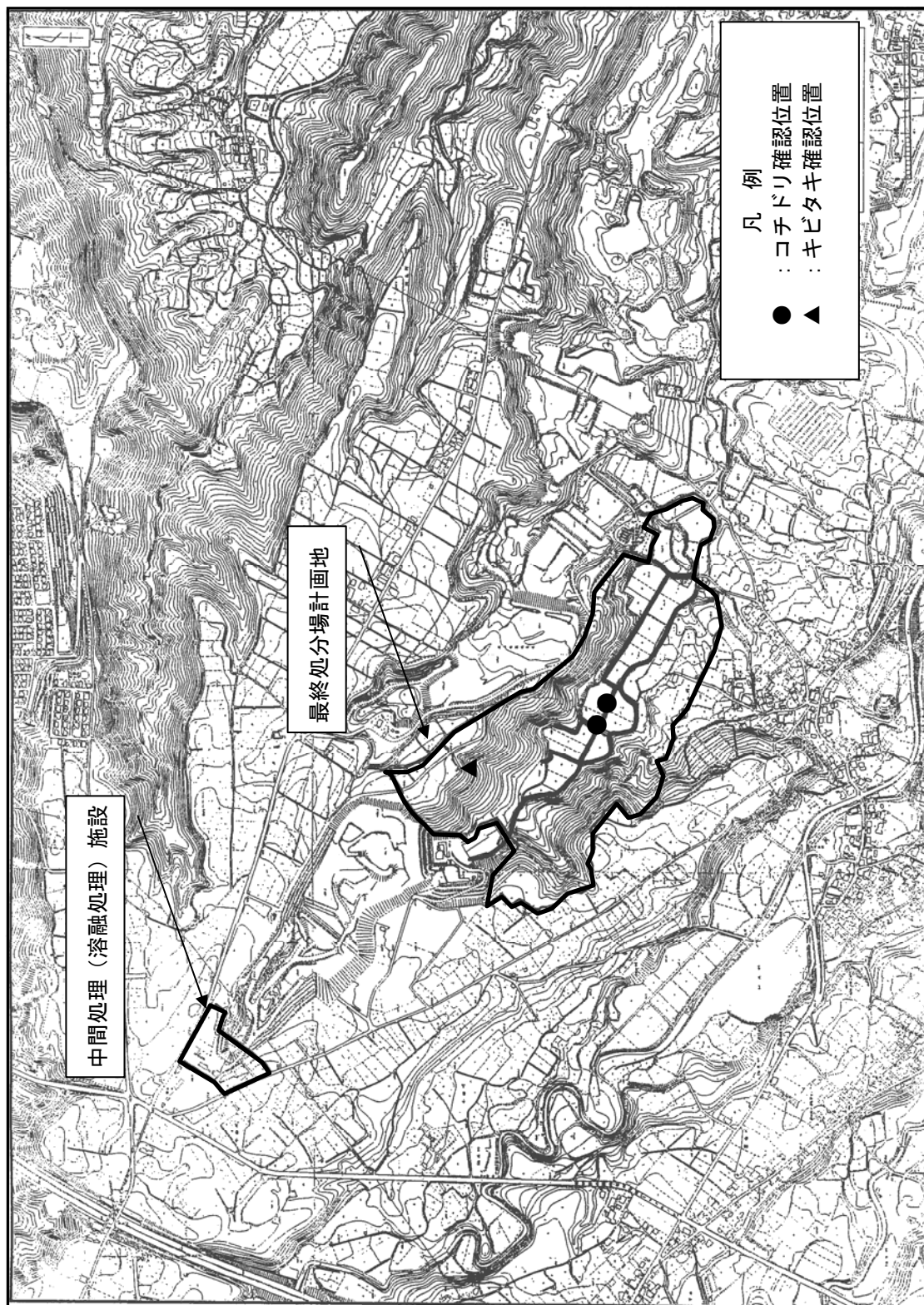


図 8-4 コチドリ・キビタキ確認位置

第3項 フクロウ

3-1 調査日時及び調査内容

調査は表8-5に示したとおり、平成21年4月及び平成22年1月から3月にかけて実施した。

表8-5 調査日時及び調査内容

調査回	調査日	調査時間	調査内容
第1回	平成21年4月28日	17:00～21:00	生息確認調査
第2回	平成22年1月29日	17:00～21:00	
第3回	平成22年2月18日	17:00～21:00	
第4回	平成22年3月25日	17:00～21:00	

3-2 調査範囲及び調査方法

調査は、評価書における現況調査で本種の飛翔等を確認した場所を中心に計画地内を広く踏査する任意観察により実施した。

調査範囲は図8-5に示したとおりである。

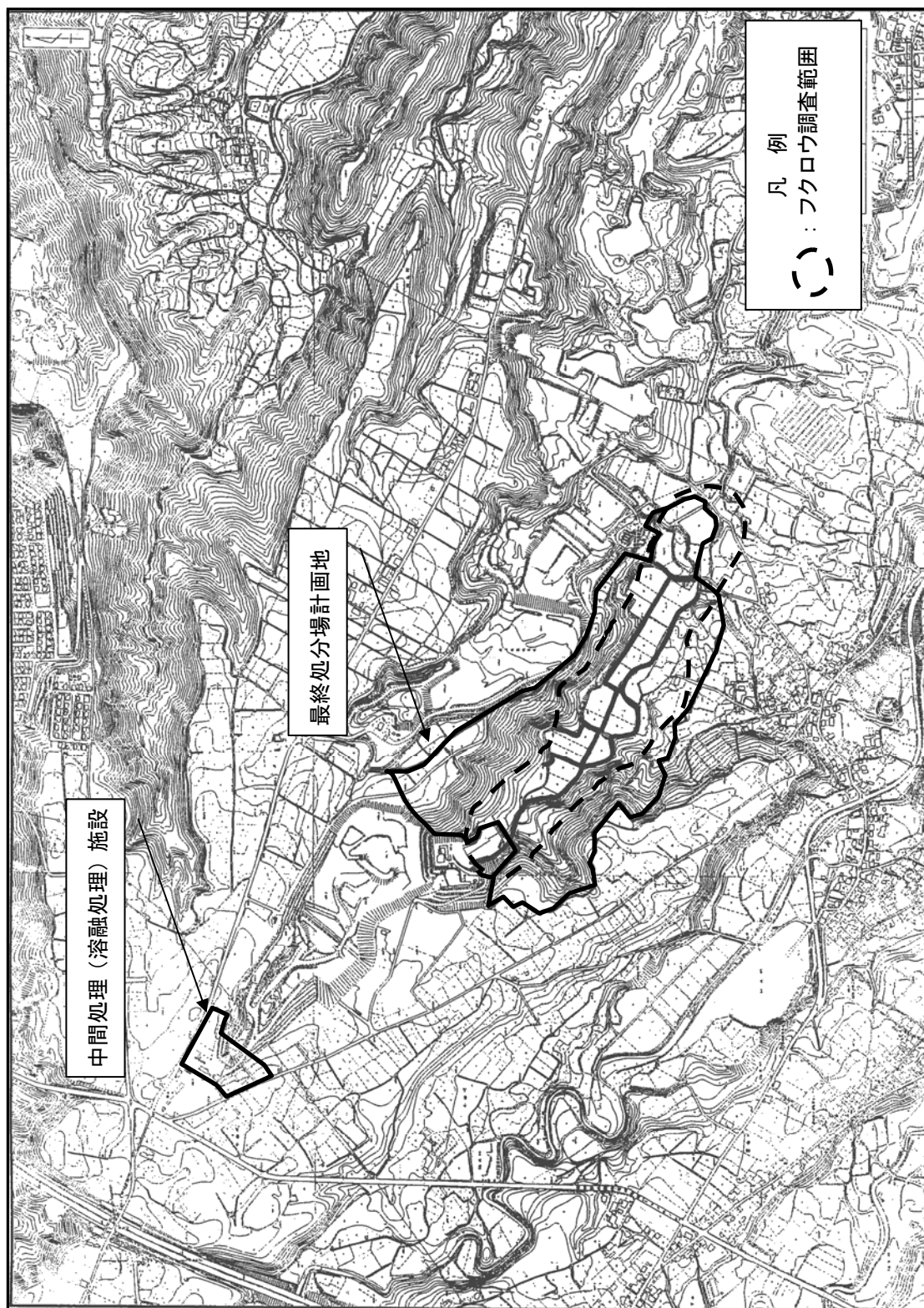


図8-5 フクロウ調査範囲

3-3 調査結果

調査の結果、本種の生息は確認できなかった。

3-4 まとめ

今回の調査では、本種は確認できなかったが、調査を実施した場所は「第1項 オオタカ・ハイタカ」の「1-5 まとめ」の項にも示したとおり、最終処分場計画地北側には四日市市南部埋立処分場があり、ここを餌場としているハシブトガラス及びハシボソガラスが本地域周辺を生息環境として利用していることと、最終処分場計画地及びその周辺の森林には、本種の繁殖地となる樹洞のあるような大径木はみられないことから、本地域の繁殖地としての利用はないものと考えられる。

第4項 アカハライモリ・ニホンイシガメ

4－1 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表8－6に示したとおりである。

表8－6 調査年月日及び調査内容

分類	調査対象種	調査年月日	調査内容
両生類	アカハライモリ	平成21年7月9日	生息確認調査
爬虫類	ニホンイシガメ		

4－2 調査場所

調査範囲は図8－6に示したとおりであり、最終処分場計画地周辺で実施した。

4－3 調査方法

調査は調査範囲内を任意に踏査する任意観察により行い、対象種の確認に努めた。

4－4 調査結果

調査の結果、アカハライモリは最終処分場計画地南側の水田脇水路付近を中心に、成体25個体、幼体40個体の計65個体を確認した。

また、ニホンイシガメは最終処分場計画地の東側区域外で2個体を確認した。

確認地点は図8－7に示したとおりである。

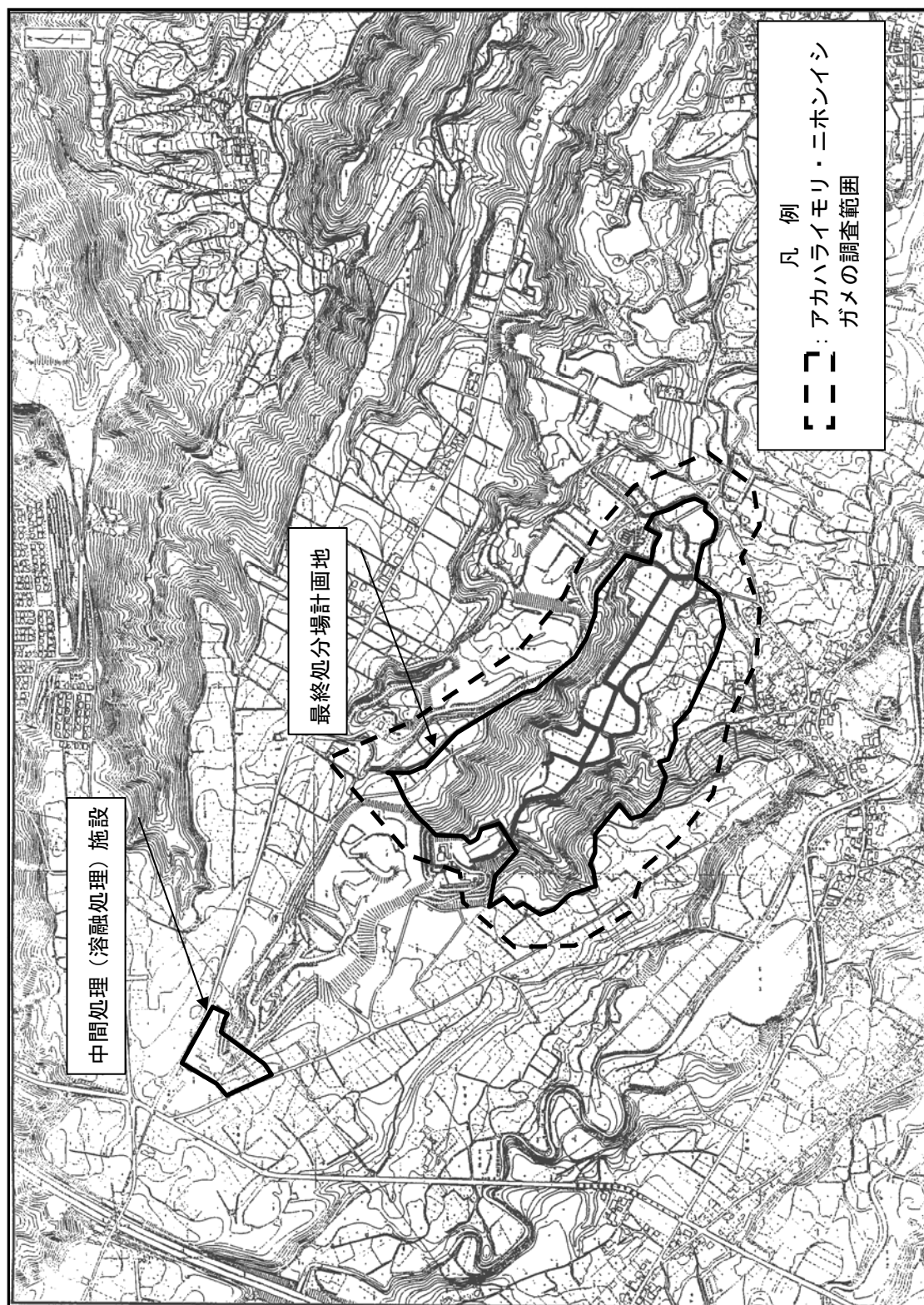


図 8-6 アカハライモリ・ニホンイシガメの調査範囲

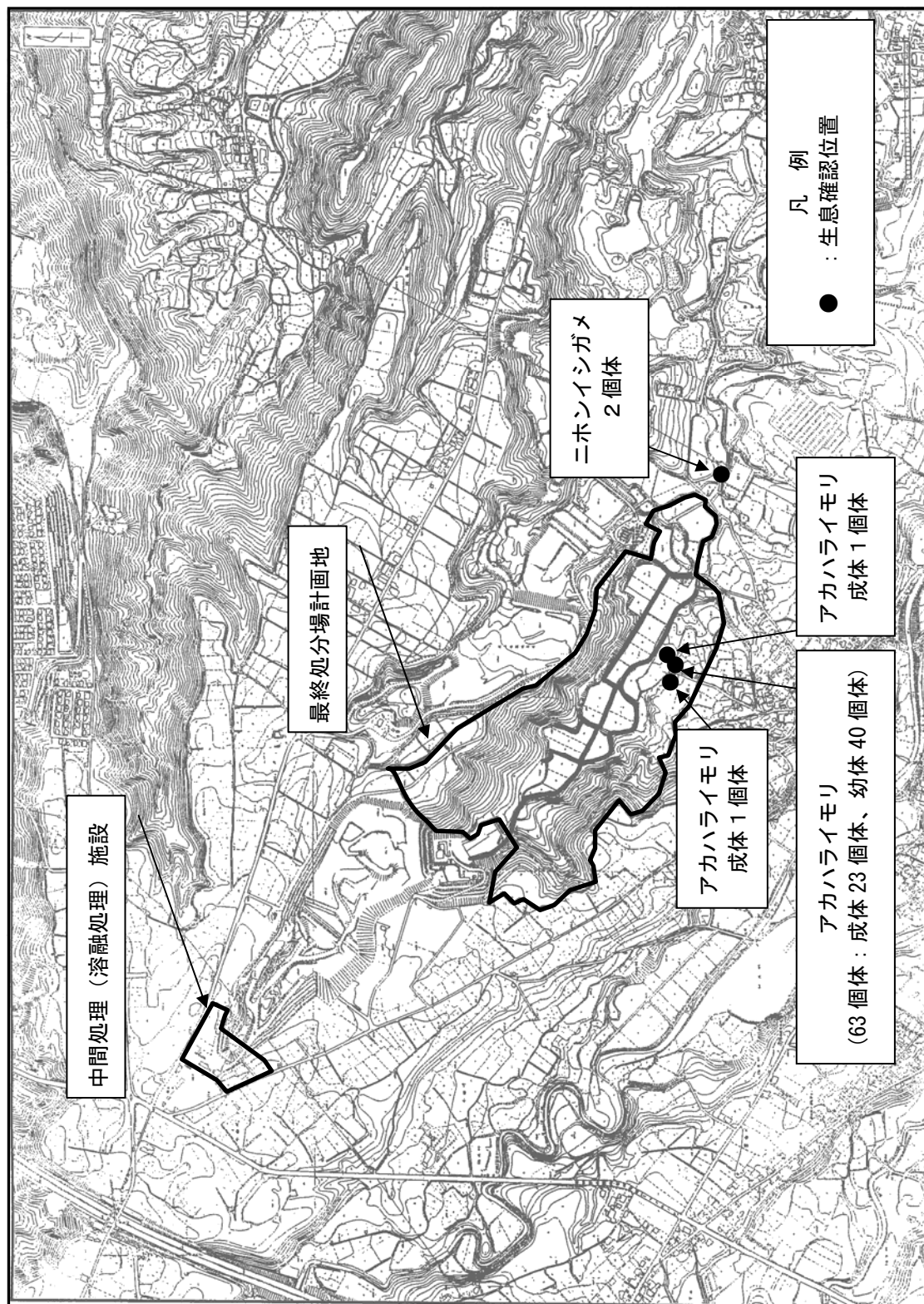


図 8-7 アカハライモリ・ニホンシガメ確認位置

4－5 まとめ

今回の調査の結果、調査対象とした両生類のアカハライモリ、爬虫類のニホンイシガメについては、両種とも生息を確認した。

現況調査当時と比べても当該地域に大きな変化はみられないが、今後、当該事業の着手を受けて、これらの種は残存緑地や周辺地域へ生息地を移動して、継続して生息するものと考えられる。

第5項 ムカシヤンマ・オオクワガタ・コガネグモ等

5-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表8-7に示したとおりである。

表8-7 調査年月日及び調査内容

分類	調査対象種	調査年月日	調査内容	
昆虫類	ムカシヤンマ	平成 21 年 5 月 26 日	生息確認調査	
	オオクワガタ ミカドガガンボ ミズアブ オオイシアブ アオメアブ	平成 21 年 7 月 9 日		
	クモ類	コガネグモ カワベコモリグモ アシナガカニグモ		平成 21 年 7 月 9 日 平成 21 年 8 月 20 日～ 21 日（バイトラップ）
	陸産 貝類	ヒラベッコウガイ ヒメビロウドマイマイ		平成 21 年 7 月 3 日

5-2 調査場所

調査は、評価書における現況調査で本種を確認した場所を中心に行った。

主な踏査ルートは図8-8に示したとおりである。

5-3 調査方法

調査は調査範囲内を任意に踏査する任意観察により行い、対象種の確認に努めた。

なお、クモ類については、任意観察調査の他、地上徘徊性の種を対象としたバイトラップ（誘引餌を入れたプラスチックコップを地中に埋め、1晩放置した後、翌朝回収）による調査も実施した。

5-4 調査結果

調査の結果、ムカシヤンマの成虫を最終処分場計画地内西側において2個体、ミカドガガンボを最終処分場計画地内南西側の林縁で1個体、アオメアブを最終処分場計画地東側の水田脇で1個体、コガネグモを最終処分場計画地内の広い範囲で計10個体を確認した。

確認地点は図8-9に示したとおりである。

その他の種は確認できなかった。

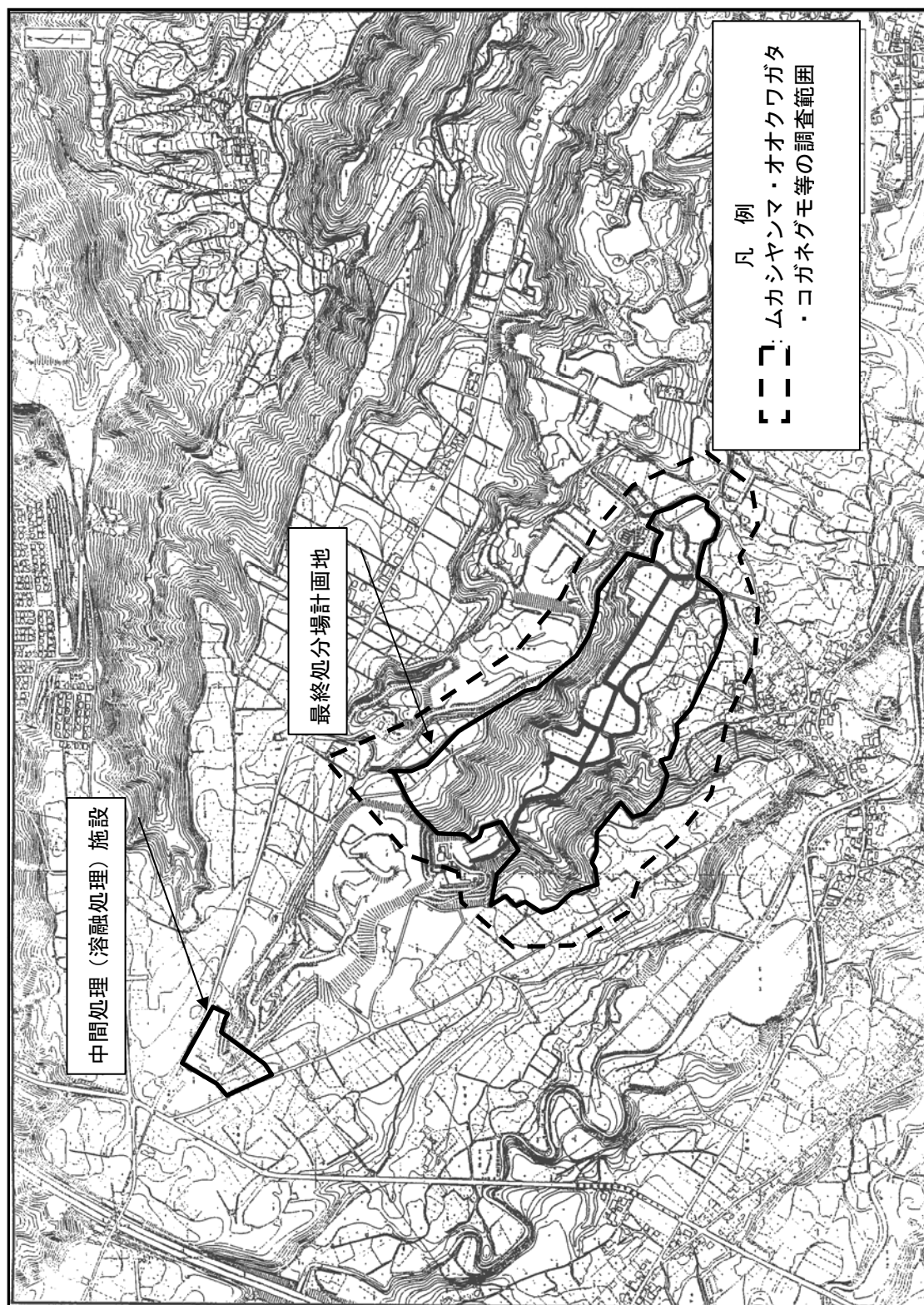


図8-8 ムカシヤンマ・オオクワガタ・コガネグモ等の調査範囲

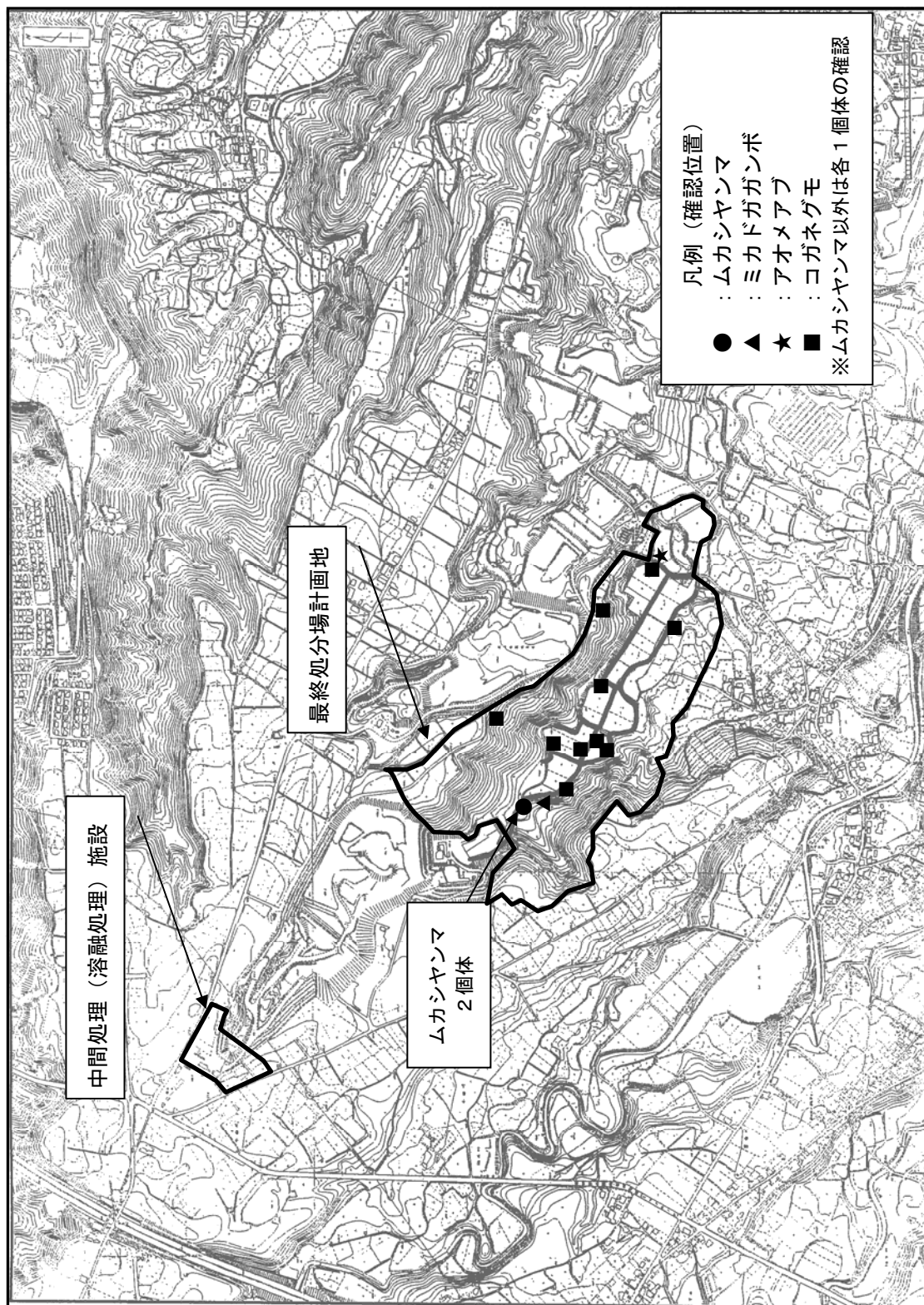


図8-9 ムカシヤンマ、ミカドガガンボ等確認地点

5-5 まとめ

今回の調査の結果、調査対象とした 11 種（ムカシヤンマ、オオクワガタ、コガネグモ、ヒラベッコウガイ等）のうち、ムカシヤンマ、ミカドガガンボ、アオメアブ、コガネグモの生息を確認した。

現況調査当時と比べても当該地域に大きな変化はみられないが、今後、当該事業の着手を受けて、これらの種は残存緑地や周辺地域へ生息地を移動して、継続して生息するものと考えられる。

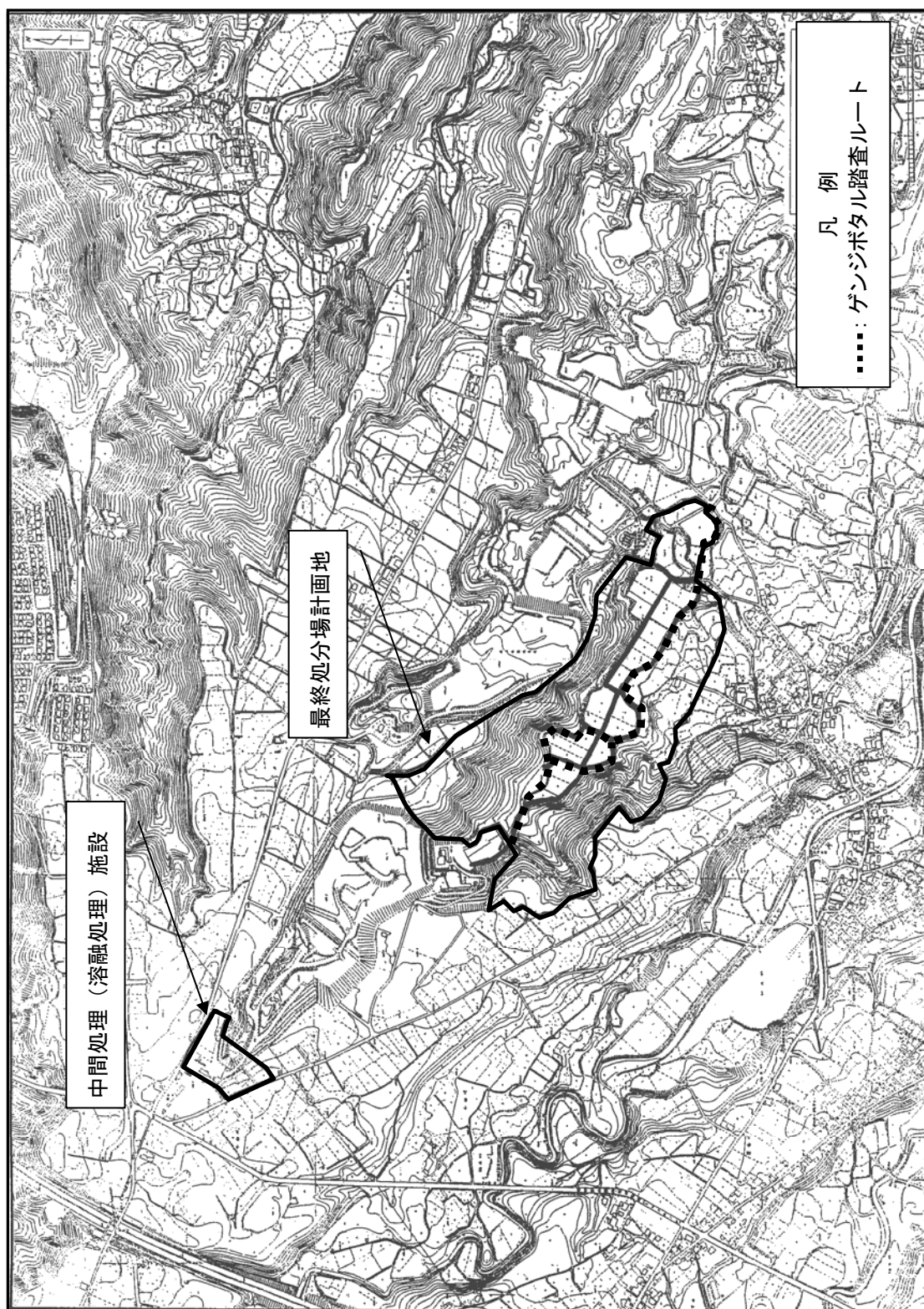


図 8-10 デンジボタル（成虫）調査ルート

第6項 ゲンジボタル

6－1 調査概要

本種は、前述のとおり特筆すべき動物の選定基準見直しにより、特筆すべき動物には該当しない種となった。しかし、評価書において保全対策を実施することとなっており、最終処分場計画地内に設置を計画しているホタル水路に当該地域に生息している本種を移殖することとしている。そのため、今年度より事業団の敷地内において、飼育施設を設置し、飼育することで遺伝子の保存を図り、ホタル水路完成後には、飼育個体を当該水路に放流する計画である。このことから、本調査では最終処分場計画地内を流れる天白川周辺における生息状況を把握し、確認される個体を全て採取し、飼育施設に移した。

6－1－1 調査日時及び調査内容

調査日時及び調査内容は表8－8に示したとおりである。

表8－8 調査日時及び調査内容

調査日	調査時間	調査内容
平成21年6月 1日 2日 9日	20:00～21:30	成虫捕獲調査

6－1－2 調査ルート

調査は計画地内の天白川沿いを中心に実施した。

調査ルートは図8－10に示したとおりである。

6－1－3 調査方法

調査は計画地内を流れる天白川周辺を夜間踏査し、飛翔する個体を補虫網等で捕獲し確認を行った。

6－2 調査結果

調査の結果、36個体を捕獲した。

確認位置は図8－11に示したとおりである。

確認状況としては、天白川沿いの最終処分場計画地内に広く分散してみられた。

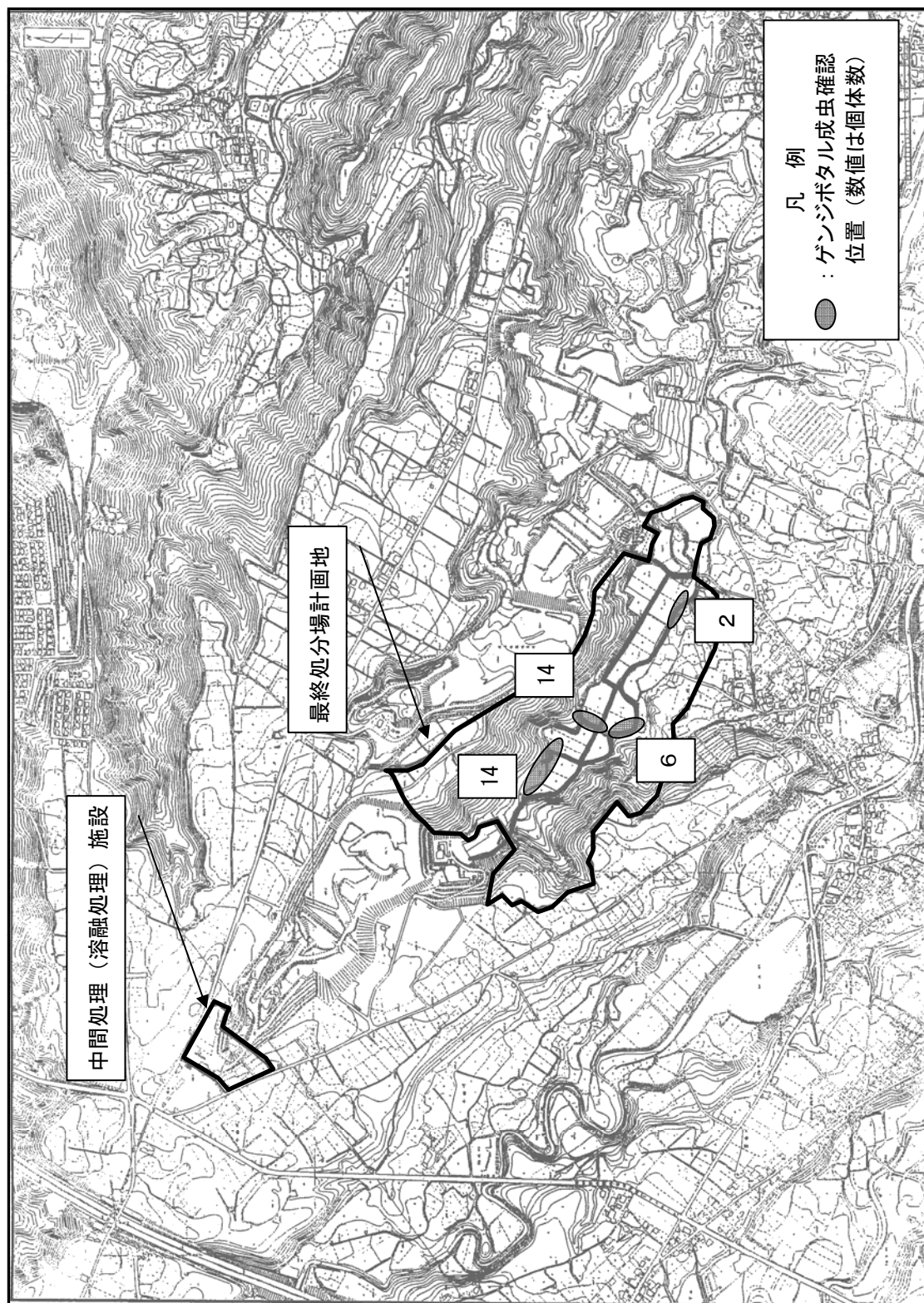


図 8-11 ゲンジボタル（成虫）確認場所

6－3 まとめ

本調査において成虫を 36 個体捕獲した。この個体数は昨年度の確認数（64 個体）と比べるとやや少ない結果であった。

なお、捕獲した個体については、事業団敷地内に設置したホタル飼育水槽に移し、今後、ホタル水路完成まで飼育することとする。